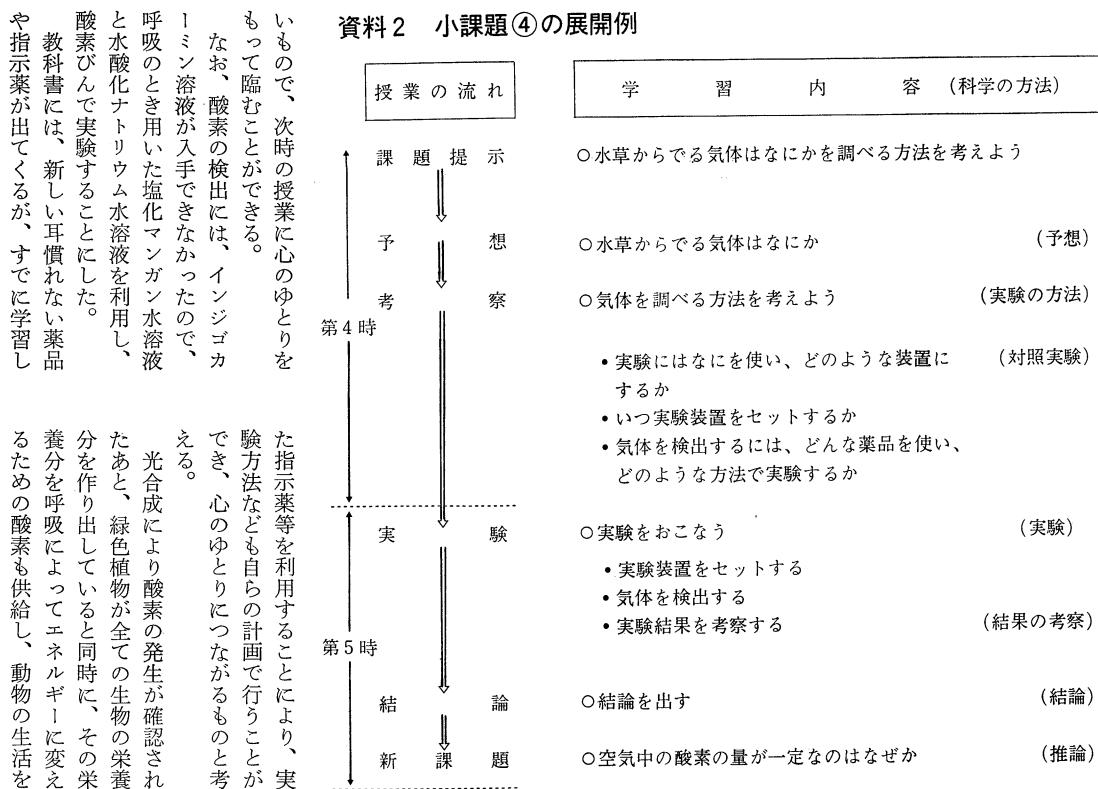


資料2 小課題④の展開例



資料3 評価の例

評価カード	実験・観察名		仮説	操作的定義	実験の計画	実験の準備	機械器具の操作	客観的な記録	実験への参加	話し合いへの参加	
	能力・態度	観察									
氏名	本時										
1											
2											
3											
4											
5											

資料4 生徒の変容

1. 評価カードの分析結果 (能力・態度面)

- (1) 観察・実験……ゆとりをもって進めることができた
- (2) 条件統一……水草を使うとうまくできた
- (3) 問題の発見……課題がよくわかった
- (4) 実験の計画……自分達で考えられた
- (5) 実験への参加……積極的に参加できた

2. 認知・情意面で目立ったこと

- (1) 二酸化炭素の発生はよく確認できたが、量との関係を調べる実験はむずかしかった。
- (2) 理科はむずかしいものという失入観があったが、だんだんわかるようになって楽しい

その結果を資料4に示してみた。
つたない実践例ではあるが、今後もこのような考え方のもとに、新指導要領の意図することの実現に向かって努力していきたいと思っている。

工夫することにより、心のゆとりをみだす、こうして生徒が主体的に学習と取り組むことができれば、充実した理科学習になると思う。
また、生徒の変容については能力・態度の評価は資料3の評価カードを利用し内容の定着度合いは事後テストでみるとことにしている。